

令和6年度 京都府中丹地域戦略会議開催結果（概要版）

1 日 時 令和6年9月5日（木） 14時00分～16時00分

2 場 所 綾部市ものづくり交流館 2階 多目的ホール

3 出席者 【委員】出席10名（欠席2名）

【オブザーバ】各市企画担当課長等

【中丹振興局】奥野局長、宮下中丹教育局長、松原副局長、

井関地域連携・振興部長、大槻農林商工部長、細井建設部長 他

4 主な意見等

（1）現在取り組んでいる事業等の事実上の課題について

《子育て》

- ・人口が減少していくと地域の維持が難しくなるため、まずは子ども向けや若者向けの制度を戦略的に増やしていくことが必要。また、地方で活躍している女性のロールモデルを発信するなど、若い女性にターゲット絞った戦略を打ち出してほしい。
- ・最近、子育て広場の参加者に外国籍の方が増えているが、そういった方々に対する支援が必要ではないか。
- ・移住して来られる方にとって、その地域の子育て環境が心配なので、若い女性や子育て世代をターゲットに絞ったイベントの実施や情報が若い女性にも届くような広報の仕方も大事。
- ・個人の多様性を尊重できるまちづくりを目指すためには、中丹地域で外国籍の方や障害をお持ちの方など多様な方々が子育てできる環境づくりが必要。人口を増やすための取組は重要だが、もう少し範囲を広げた考え方で一人ひとりの多様性を大事にする取組も重要。

《U I ターン等》

- ・転職を考える際に地方の仕事や農業など、それまでと違う分野の職が視野に入った時に受け皿や情報があると一つの選択肢になると思う。
- ・新卒採用で働いている20代後半から30代くらいの若者の中にも、地方での暮らしを考える人が一定数いると思うので、この層もターゲットとして考えてほしい。
- ・地域外からの移住者は中丹地域に魅力を感じて来られるが、中丹地域に元々住んでおられる方は中丹には何もないとおっしゃる方が結構多く、もったいなく感じる。
- ・Uターン者を増やすためには、中丹地域が本当に好きだという子を育てる必要があり、足元の施策として、幼いときからこの地域が好きだという想いを醸成する教育の仕組みができればと良いと思う。
- ・中学生、高校生はあと5年10年すれば働き始めるので、幼い時期からの教育や情報発信に力を入れることが重要。そういった子たちが成長して、地域外から友達が来た際にこの地域の魅力を伝えてもらえればまた繋がりが広がると思う。
- ・企業側としては、保護者向け説明会のような取組をより多く開催してもらえると企業の説明や宣伝もできるので、機会を増やしてほしい。
- ・外国籍の方は、将来は祖国に帰ってしまうなど難しい部分もあるが、日本で働いてもらえるような取組があっても良いのではないかと思う。
- ・外国籍の方が各市に何人住んでいてどこで働いているか、また、女性の就業者がどの分野に何人働いているかは、各市が把握しているはず。中丹局と各市で情報共有をし、具体的な施策に繋げてほしい。

《担い手育成・確保》

- ・人手不足の問題については、農業の分野でも後継者不足や高齢化が進んでいる。実際にU I ターン者の中にも農業を志して来られたが、生活が厳しいため途中で辞められる方も相当数いる。
- ・新規就農者への支援はあるが、支援しても辞められる農家は多いのでしっかりと食料を守れるような政策、農業自体を守る政策が必要で、需要と供給だけによらず価格を決めていかななくてはならないと思う。

《野生鳥獣》

- ・中丹地域では特に鹿・イノシシの被害が多いため、京都府として個体調査などに一層力を入れてほしい。
- ・林業でも鳥獣被害は大きな問題であり、特にクマの出没件数が増えている印象があるので、中丹局である程度の頭数情報を得た上で対策を打ち出すことが重要。

(2) 中丹地域振興計画の更なる事業展開を目指す上での課題について

《U I ターン等》

- ・中丹地域の強みは、長田野工業団地や綾部工業団地があることだが、大学生が工業団地の企業に就職して、どのような活躍をしているのか伝わっていないのではないかなと思う。また、工業団地の企業が大学生に対し、どのようなニーズを持っているのかが分かりづらい部分もある。
- ・工業団地の企業について知ってもらう取組を小中高校で実施するのもよいが、大学生に向けて積極的に発信するのも企業にとって重要。
- ・U I ターンを考えている学生に、地元の就職先として金融機関や公務員だけでなく、魅力的な企業が多くあるという情報をダイレクトに届けば、もっと地元就職が増えると思う。
- ・中丹地域で頑張ろうと思ひ、探せば良い企業もあるはずだが、そういう動きにならないのは、保護者が戻って来ても仕方ない、出て行った方が良いという方が多いからではないかなと思う。その意識をどう変えていくかは難しい課題。
- ・保護者が自身の子に中丹地域の魅力を伝えるのも大事だが、本人に夢や希望がないと地元へ戻って来ってもらうのは難しい。若いうちにふるさと教育などで、愛郷心を育てることも大事だが、まずは家庭の中で子どもに夢や希望について考えてもらうことが必要。
- ・故郷に帰ってくる世代として60代から70代の定年を迎えた層も多いと考えられる。今後、そういった世代で元気な方々が社会で働くようになっていくはずだが、こういった方々をターゲットにした取組は何かできないか。

《子育て》

- ・最近子育て広場に来られている父親が増えてきて、男性育休を取得されているが、取得されているのは行政の方や育休がとりやすい職場の方で、企業の方はなかなか取れない状況。企業に男性育休が取りやすい体制がもう少しあれば、お母さん方が子育てしやすく、子育てが楽しいと思ってもらえると思う。

《担い手育成・確保》

- ・後継者不足で廃業している会社も多くある中で、異業種だが近しい業種であれば事業譲渡して継承していくという流れが増えてきている。どこかの業者が廃業するとなった際に、事業範囲を広めていく道を京都府で後押しするなど、状況を踏まえた施策を考えてほしい。

- ・親が自分の仕事に誇りを持ち、自分の子どもに親が頑張っている職場として、将来一緒に仕事をしないかと紹介してもらえそうな風土づくりが非常に大事だと思う。
- ・様々なことを知った上で移住してくる方と何も分からずに移住してくる方の2つの層が必要だと思う。特に農業分野は昔農業をやったことがある方や、地域の仕組みをよく分かっている方に移住してもらい、RMO（農村型地域運営組織）や自治会などで力を発揮してほしいと思う。
- ・獣害対策について、ハンターも高齢化により減ってきていると思う。これも担い手育成だと思うが、狩猟免許を持っている若者を増やしていくとか、狩猟の新たなハンターを育成していくような取組が必要ではないか。
- ・京都府からの有害鳥獣の駆除や、狩猟期間中の報酬費が毎年予算が減っているが、猟に関わる人がもっと猟をしやすいうようにするべきではないか。

《観光・交流促進》

- ・中丹地域に関わる学生が、地域の良いところを全く知らない人に対してPRするような場があれば、改めて自分の地元の良いところを調べる機会になる上に、観光分野もPRできる。今後万博も開催されるため、中丹の魅力を地元の若い方の力を借りて発信することができる、教育的な効果も期待できると思う。

《その他》

- ・事業のイノベーションについて、様々な業種の企業が連携してお互いにタッグを組んだり、ネットワークを作ったりする時には、脱炭素やエネルギーなど、一つのテーマを設定してそこに集まる企業が何か新たなイノベーションを起こせるような支援を検討いただきたい。